

インターンシップの 新たな定義とは？

日本におけるインターンシップの現状・課題

- ✓ 「インターンシップ」という名の下に、様々な目的・形態・期間等のプログラムが実施され、学生の間で混乱や焦りを招く一因に
- ✓ 特に学生は、採用につながると期待して、業務を全く体験しない「インターンシップ」と称する短期プログラムに参加しているのが実情

日本のインターンシップが目指すべき姿

学生が職場で業務を実際に体験し、仕事の楽しさや厳しさ・難しさなどを認識することで、自らの能力を見極めるキッカケ作りとなる **「質の高いインターンシップ」** の普及が必要

タイプ1

オープン・カンパニー

業界・企業による説明会・イベント



- ・ 就業体験：**なし**
- ・ 参加日数：**超短期（半日・1日）**
- ・ 対象学年：**年次不問**
- ・ 取得した学生情報の採用活動への活用：**不可**

タイプ2

キャリア教育

大学等の授業（講義）や企業による教育プログラム



- 就業体験：**任意**
- 参加日数：プログラムによって異なる
- 対象学年：**年次不問**
- 取得した学生情報の採用活動への活用：**不可**

タイプ3

汎用的能力・専門活用型インターンシップ

職場における実務体験



- ・ 就業体験：参加日数の半分を超える日数で実施
職場の社員が学生を指導し、インターンシップ終了後、
学生に対しフィードバックを行う
- ・ 参加日数：**5日以上**
- ・ 対象学年：**学部3年・4年、修士1年・2年**
- ・ 取得した学生情報の採用活動への活用：**可（採用活動開始後）**

タイプ4

高度専門型インターンシップ

特に高度な専門性を要求される実務を職場で体験（例：ジョブ型研究インターンシップ）



- ・就業体験：**必須**
- ・参加日数：**2か月以上**
- ・対象学年：**修士1年以上**
- ・取得した学生情報の採用活動への活用：**可（採用活動開始後）**

わかやまインターンシップでは実施しません。